

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1293419
施設名（園名等）	立川かしの木幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

日常をアートとしてとらえる

<テーマの設定理由>

当園の理念「心豊かな集団づくり」と“根っこ”を育てる教育目標のもと、子どもが自ら選び、試し、続けられるコーナー環境や自然と接続する園の強みを活かして設定した。日常の観察から見られる素材や光・火などへの強い関心と、友だちの表現を通して問いを深める姿を踏まえ、日常そのものを探究の場として再定義した。

2. 活動スケジュール

【通年（4月～3月）】

日常的なコーナー保育（毎日）

※補助的に週1回アート教室（Happyart）

【特別プログラム】

森の小さな探検隊／インスタレーション〈かしの木展〉／親子でたき火

【活動内容の発信】

カシノキジャーナル発行・活動共有

① 探究の出発点

— コーナー保育 —

Kashi No Ki のあそび

立川かしの木幼稚園では、子どもたちの「やりたい!」という気持ちを大切にしながら、子どもたちが自分の興味や関心に合わせて、自由に遊びを選ぶことができる「コーナー保育」を行っています。

子どもたちにとっての「遊び」は、ただ楽しいだけではなく、学びや気づき、そして成長の宝庫です。

泥遊び・水遊び・ごっこ遊び・製作・積み木など、さまざまなコーナーの中から自分のやりたいことを見つけ、夢中になって取り組む中で、考える力、創造力、言葉で伝える力、友だちとの関わり方など、たくさんの力が自然と育っていきます。

また、異年齢の子も一緒に遊ぶことも多く、年下の子を思いやる気持ちや、年上の子への憧れ、学び合う関係が自然に育まれることや、季節や行事に合わせて遊びの内容や環境に変化を持たせながら、一人ひとりの成長や興味に寄り添った援助を行っています。「コーナー保育」は、遊びの中から「学びの芽」をそとと育てていく大切な時間となっています。

日常をアートに

子どもたちの何気ないぐさや、
泥んこの足あと、ふとこぼれる言葉

そのすべてが、その子だけの「今」を描いたアートです。

今年度は、そんな日常中の表現を大切にしながら、

「日常そのものがアート」

という視点を保育に取り入れていきます。

感性のアンテナを立てて、子どもたちの世界と一緒に味わい、

子どもと先生、そして保護者の皆さんも共に、

日常をアートのように楽しむ一年にしていきたいと思います。

どんなあそびをしているの?

子どもたちに人気のあそびを一部ご紹介!!

泥んこ・泥だんご



粘り気がある回く砂や、さらさらな砂など、遊びながら質感を味わったり、泥の冷たくて気持ちのいい感触を全身で感じています。

年少さんの頃は泥が苦手だった子どもたちも、日に日に手が足が真っ黒になり、全身泥だらけになる子どもたちもいます。

発掘



かしの木幼稚園の園庭には

ダイヤモンドでんせつ石が埋まっています。

「夜、かしの木の妖精さんが宝石を降らせてくれているらしい」

子ども達の中でそんな噂がささやかれています。

シャベルを使ってダイヤモンドでんせつ石を一生懸命掘る。

見つからない時には年上の子がそとと手を差し伸べてくれる。

様々な学びが生まれるかしの木ならではの遊びです。

どんぐり



かしの木からは、どんぐりがたくさん落ちてきます。そんなどんぐりを使ったあそびが幼稚園にはたくさんあります。

コマ・笛・アクセサリー・どんぐり流し・ころころ滑り台

どんぐりを使ったあそびは無限大。

子どもたちは創意工夫で素敵なあそびにチャレンジしています!

水路づくり



一年中、冬でも大人気の「水路づくり」試行錯誤しながら水の流れる道を作り、パイプのつなぎ方や高さの調整、

友だちとの連携、壊れた部分の応急処置など、遊びの中で次々と出てくる課題に向き合いますが、夢中になって取り組んでいます。

子どもたちのバランス感覚や調整力、

そして何より協力してやり遂げる力が

育っていく姿が見られます。

シャボン玉



うちわで作る小さいシャボン玉。

園長先生お手製の巨大シャボン玉。

どうやったらうまくできるのか日々研究しながら作っています。

そんなシャボン玉がたくさんできる秘密は、

幼稚園独自配合の「かしの木シャボン液!」

詳細は企業秘密ですが、特別に使用材料を初公開!

材料 : 洗濯のり・洗剤・ガムシロップ・水

配合はご家庭で研究してみてください!

焚き火



寒い季節になると、焚き火は大人気!

薪や新聞紙を入れながら火を燃やしていきます。

鍋に水や葉っぱなどを入れてスープを作ったり

空き缶に木を入れて炭を作ったり

自分たちで収穫したさつまいもの焼き芋や、ポップコーンもします。

火は危険な物ではありませんが、

火を使う危なさも感じながら、いろいろな体験を楽しんでいます。

サイエンス色水



赤・青・黄

3原色の絵具を混ぜて色を作る「色水あそび」

自由に好きな色を作ったり、水の量を変えたり

「あたらしい色できた!」

と思わずみんなに教えたいくなるワクワク感

そんな、子どもたちの「やってみよう!」を引き出せる場所です。

積み木



電車の線路や駅、大きなお城を作ったり。

イメージを形にしながら組み立てていく積み木遊び。

創造力や集中力、構成力、表現力など、多くの力が育ちます。

他にも友だちと一緒に大きな作品を作る中で、

協力し合ったり、意見を交わしたりする力や、

思うようにいかず崩れてしまったときに、

そこから作り直したりする経験を通して、

粘り強さや問題解決力が自然と身につきます。

廃材



塗り絵や折り紙、空き箱やカップ、芯などの

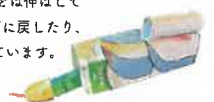
廃材を使って製作を楽しんでいます。

ハサミやセロハンテープの使い方を覚えていたり、

まだ使えそうな折り紙などは伸ばして

「まだつかえるかみ」の箱に戻したり、

資源の大切さを伝えています。

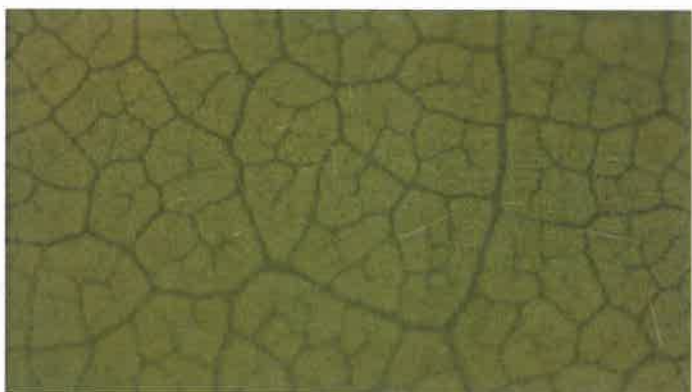


CHECK! 今後は一年を通して「あそび通信」としてかしの木のあそびの様子を発信していきます。お楽しみに!

コーナー保育（デジタル顕微鏡）



実際に観察したもの



② 視点をひらく機会

— アート教室 (Happyart) —

Happy Art Day —ころころちゃんとおそぼう—

年中さんはじめまして！はじめての Happy Art Day です！

第一回の Happy Art Day では、粘土のころころちゃんとおそぼしました♪

粘土のボールをころころちゃんと呼び、白いお庭へ遊びに行きます。

絵の具をつけてころころ ころころ お庭で遊んでいるところころちゃんの通ったところに足跡のように線ができます。

ころころ ころころ たくさんの足跡をのこしてころころちゃんは「なんじゃこりゃ!？」というようなカラフルな絵を描いていきます。

ころころちゃんのたくさん走った跡がたくさんできたけど、なにをかいてくれたのかは分かりません。

でもみんなで魔法をかけると…

すてきなハートの絵がかけていました♡

粘土に絵の具をつけて転がすゲームのような制作でした。

子どもたちは白いお庭に足跡が残る様子を楽しみ、色を変えたときに重なり混ざり合う様子の中であたらしい色を発見する場面もありました。

ころころちゃんとおそぼしているうちに出来上がり、優劣がつかないこのカリキュラムは美術の楽しさと達成感を味わうことができ、「僕にもできた！私にもできた！」と自分に自信をもつチャンスになることでしょう。

美術は絵を描くだけではなく、楽しい遊びの中で生まれ、子どもたちに驚きと新たな発見をもたらします。

子どもたちの豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、誰でも芸術を好きになれるような指導を目指してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根叶子

Happy Art Day ー春の種さんー

第一回の Happy Art Day です！

久しぶりの Happy Art Day では最初にクレヨンさんのご挨拶から始まりました。

クレヨンバスに乗ってきたクレヨンさんたち、今日は一緒にがんばろうね！とお友だちのクレヨンと「一緒に描こう」という気持ちになって制作を始めました。「クレヨンで描く」ではなく、「クレヨンと一緒に描く」という気持ちでいると、子どもたちはクレヨンと遊びながら楽しくお絵描きをできます。



今日は春に咲く不思議な種さんを持ってきました！春の暖かい季節は様々な植物が芽吹く季節ですね。土を被せてあげて、お水と太陽の光もあると、大きくなるね！

種さんからはなにが咲くかな？お花かな？お魚が咲くかもしれないね？など、不思議な種からはどんなものが咲くか、子ども達とワクワクしながらクレヨンで描きました。



素敵な香りのするお花や大きな木、新幹線まで！子どもたちの自由な発想でいろいろなものが種から生まれました。

今年度も子どもたちの想像力から生まれた素敵な作品がたくさん見られることを楽しみにしています！そのお手伝いができるよう楽しく指導を行なっていきます。

どうぞよろしくお願いいたします。



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根叶子

Happy Art Day —アニマルリュック—

第2回目のHappy Art Dayです♪

年中さんはアニマルリュックを制作しました。

今回はリュックに動物のお顔を作って、遊びに行くのに楽しくなるようなリュックを制作しました。

リュックの動物に感情があるように擬人化を用いて子どもたちにお話をしました。擬人化をしながらお話をすることで、さまざまなものに命があることを想像させ、思いやりや優しい心を育てるきっかけを与えてくれます。

先生のリュックの動物さんはリリーちゃん！なんだかお友だちがほしいみたい！お友達はどんな動物かな？

かわいいねこやうさぎ、かっこいいくまやトラなどさまざまなりリーちゃんのおともだちができました！

お出かけが楽しくなるように素敵な模様もカラーペンで描いて、お出かけが楽しくなる素敵なデザインをしてくれました！

終わりのご挨拶の後、みんなでリュックを背負ってクラスに戻りました♡

どこにお出かけに行こうかな？お外に出るのがワクワクするようなかわいいリュックができましたね♪



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day 糸引き

第2回目の Happy Art Day です♪

今年年長さんは糸と絵の具で不思議な模様が出来る作品づくりを体験しました。

この体験を通し、美術は絵を描くだけではなく、楽しい遊びの中で生まれ、子どもたちに驚きと新たな発見をもたらします。



糸にはヒッキー君という名前をつけて導入を行いました。

ヒッキー君はかけっことお風呂が大好きな男の子です。

年長さんのみんなに得意のかけっこでご挨拶に行きます！

なんだか喉が乾いちゃった・・・絵の具のジュースをたくさん飲んだらなんだか眠たくなって、お布団で寝てしまいます。朝起きたヒッキー君のお布団には夢の跡のような絵が出来上がっています。



みんなは楽しくヒッキー君と遊べるかな？どんな夢の跡が残るかな？

自分で絵の具やクレヨンで描いた絵とは違った視点で作品制作を行うことができました。

ヒッキー君と遊んでいるうちにできあがる、優劣がつかないこのカリキュラムは美術の楽しさと達成感を味わうことができ、自分に自信をもつチャンスになったのではないのでしょうか。

みんなヒッキー君に愛着を持ちながら行った作品を嬉しそうに見せてくれました。

おばけやちょうちょの羽、お花いろいろなものに見えたことを教えてくれました！



子ども芸術ネットワーク所属

かしの木アートクラブ講師

曾根 叶子

Happy Art Day —○△□のデザイナー—

今回の年中組さんは様々な大きさの○ △ □のかたちさんたちとたのしく遊びました♪

○さんと△さんが仲よく遊んでたらおうちになっちゃったり
△さんが二人でちょうちょさんになったり
たくさんつなげていったらどんなかたちに大変身するんだろう??
つなげたり重ねたりすることで不思議な形に返信する姿を楽しんでいたのが印象的でした!



かたちはちいさなものからおおきなものまであるのでのりの量を調整しながら貼っています。



どんどんつなげていったり、貼ったところにさらに重ねていくと形が変形していき…素敵な町やおしろ、さまざまな形が出来上がりました!

単純なかたちの組み合わせでも無限の可能性がひろがっていきます。

どんな発想ができるか、それぞれの個性が光る瞬間ですね。なんだか絵本の挿絵のような鮮やかでやさしい色とかたちの世界がたくさん出来上がりました。



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —ふわふわだっこちゃん—

年少さんのみなさんはじめまして！初めてのHappy Art Dayですね！Happy Art Dayで講師を務める曾根と申します。

第一回のHappy Art Dayでは、思わず抱きしめたくなるふわふわのお



ともだち「だっこちゃん」を作りました♪
まずはみんなで綿を触ってふわふわの感触を楽しみます。手で感触を楽しむことで子どもたちの興味を引き出します。



綿を伸ばしてみたり、手で押してみたり、子どもたちが感触を楽しんだら、排水溝ネットに綿を詰め込んでだっこちゃんの体を作っていきます。

次に目や耳、口などのパーツをつけます。

パーツは全てシールになっています。

手先を使う難しい作業でしたが、指先を使ったシールの剥がし方を教えると、子どもたちは諦めずにシールを剥がしてくれました！耳の形や色は子どもたちが選び、それぞれにとっても可愛らしいだっこちゃんが出来ました♡



お人形は子どもたちの感情移入がしやすく、お人形に対し

て命があるように接することでやさしい気持ちを育む手助けをしてくれます。

最後はみんなで優しくぎゅっと抱きしめてくれました！やさしい気持ちでたくさん遊んでくださいね♪



子ども芸術ネットワーク所属

かしの木アートクラブ講師

曾根 叶子

Happy Art Day —たたみ染め—

今回の年中組さんはたたみ染めという技術を使って紙をさまざまな模様
に染めました。



紙をたくさん折って小さくするところから始まります。

三角形とジャバラ折りの2種類のやり方を教え、折り方を選んでもらい
ました。

1枚目はみんなで三角形の形に5回折ります。小さくなっていくと紙が固くなって折りに
くくなっていきますが、子どもたちはがんばって手の力を使って折っていました。

三角形に折れたら、三つの角に1つずつ絵の具のジュースを飲ませてあげます。



ごく、ごく、ごく、プハ〜！という合図でみんなジュースを飲ませ
ます。

ジュースを飲ませてあげたら、新聞紙のお布団に寝かせてぎゅ〜っ
と手で押さえて、紙に絵の具を染み込ませます。

紙が破けないように優しく、静かにひらけば、紙にさまざまな模様
が浮かび上がりました！

できた模様は全て異なり、出来上がったものを広げた子どもたちは
「きれい！」と声をあげて喜んでいました。



2枚目の方は少し難しいジャバラ折り！こちらは三角形かジャバラ折りのどちらかを選べ
るようにしています。手先を使った難しい折り方でしたが、表と裏にひっくり返しながらみ
んな上手に折れていました。

誰でもきれいな模様ができるので、子どもたちの中で作品の優劣がつかず、自信につな
がるアートになりました。



子ども芸術ネットワーク
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —なんじゃこりゃ版画—

第6回目の Happy Art Day です♪

今回の制作では、はさみが大活躍！

まず、ハガキサイズの白画用紙を2回ランダムに折ります。まっすぐに切ったり、紙を回しながら切ったなんじゃこりゃ！？なかまたちがたくさん生まれました。



白画用紙の他にも紙皿の外側の部分やシールを使い、偶然生まれたかたちから、新しいかたちを発見することで子どもたちは想像力を働かせて制作に取り組んでいました。

出来上がったかたちを今度はローラーを使って真っ黒なインクを塗っていきます。その上から白画用紙を乗せ、手を使ってすりすりところすって魔法をかけていきます。



画用紙に綺麗に写しとれたかたちを見て、子どもたちは「わぁ〜〜！できた！」と嬉しそうな声がたくさん聞こえました。



人のようなかたち、鳥に見えるかたち、さまざまなおもしろいかたちが出来上がりました！子どもたちの想像力は本当に豊かですね！



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —にじいろたまご—

第2回目の Happy Art Day です♪

今回はお水の魔法を使ってカラフルなにじいろたまごを作りました！

真っ白なたまごにカラーペンで模様や色を塗っていき、たまごをおめかししていきます。

たまごは割れやすいから優しく塗ってあげてね、と声かけをして始めました。



すてきな模様がかけたら、いよいよお水の魔法を使います。お水を含ませた筆をカラーペンで塗った場所に押し付けます。



じゅわ〜っという合図でみんなでお水の魔法をかけてあげると、



カラーペンのインクがお水に反応して溶け出し、紙に広がっていきました。様子を観察しました。だんだん広がっていくインクの様子や、溶け出した色同士が混ざっていく様子を見て「きれい！すごい！」と歓声が上がっていました。

描いたものが自分の意図しないものに変化していくという驚きや発見は子どもたちの想像力を豊かにしてくれますね。

すてきなにじいろたまごが完成しました。



作品はかしの木展でもご覧になれますので、ぜひ楽しみにしてください。



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

～Happy Art Day 実施内容～

ふく風が少しずつつめたくなってきましたね。
冬の気配がしてきました。
2025年第7回Happy Art Dayのお知らせです

■年中組

期 日 2025年11月7日(金)

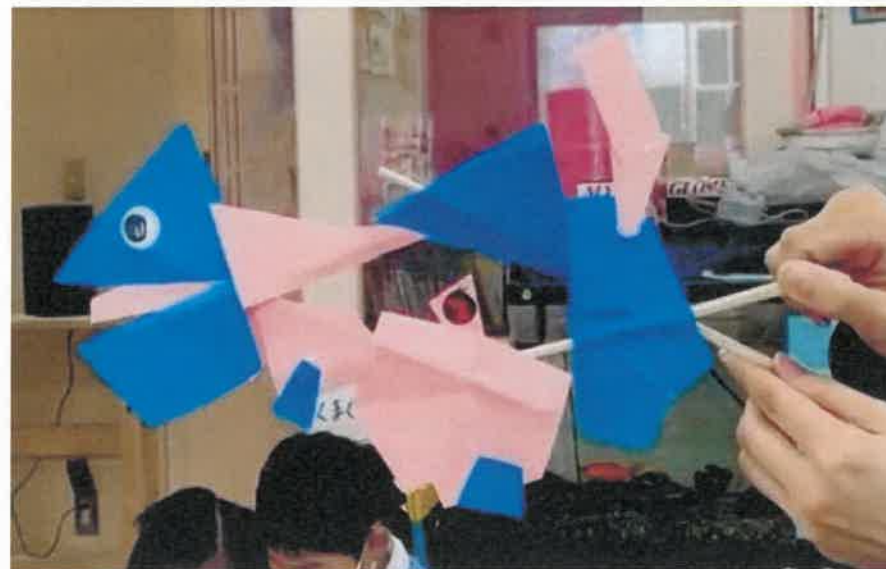
内 容 わりばし人形

—わりばし人形—

わりばしを使ったふしぎな動きの人形を作ります！

色画用紙をなんじゃこりゃ切りして、不定形な形を作ります。
なんじゃこりゃな形から面白い形同士を組み合わせ、何に見えるかな？

パクパク、パクパク、おしゃべり大好きな動物さんかな？
ふりふり、ふりふり、おててを振るおともだちかな？
どんな人形ができるか楽しみですね！



Happy Art Day ートコトコ歩く動物ー

第7回目のHappy Art Dayです♪

おさんぽ大好きな動物さんのお友だちを作りました！
はじめに丸い画用紙にお友達のお顔をカラーペンを使って描きます。お顔から制作を始めることで、子どもたちの情感を引き出し、制作に夢中になって取り組んでくれます。次に紙コップの体に繰り返しの技を使ってお洋服を着せてあげます。
同じ模様や形を繰り返すことで、かんたんにすてきなデザインをすることができます。



お顔とお洋服ができれば、手とお耳を作ります！
折り紙を半分に折り、はさみで形を切ります。
みんな一生懸命にはさみを使って形を切っていました。
しっぽをつけたい！という子もいたのが印象的でした。



お耳をのりで貼って、紙コップのからだとお顔を合体させます。油粘土のついた紙コップと動物の紙コップを被せたら完成です！

最後はみんなで楽しく歩かせて遊びました♪

動物が歩く姿を見て、どうして歩くのかを考えたり発見してくれました。アートは想像と発見をする子どもたちの柔軟な思考を手助けするのに最適なツールであるとあらためて感じました。

とってもすてきな動物さんたちができました！



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —スタンプ遊び—

第3回目の Happy Art Day です♪！

今回の Happy Art Day はダンボール、木片、ペットボトルのキャップを使い、△□○の形をスタンプします。

スタンプをするときは「1・2・3・ポン！」のかけ声でリズムカルに行います。テンポをつけることで楽しく押すことができました。

赤、青、黄色の3色をグループごとに回してスタンプしていきます。

三角形が隣り合った形が蝶々やリボンに見える！という子や、スタンプした色が重なったときの色の混ざりがきれいだね、と形や色の発見をしました。

スタンプをするという行為を楽しむ子もいれば、形を組み合わせで見立てをする子もいました。

押すという単純な行為でも子どもによってあそび方が異なるのはおもしろいですね。

すてきな作品がたくさんできました！

最後に好きな色画用紙にスタンプした作品をのりで貼り、完成です。

のりの使い方もみんなとっても上手でした♪



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —キラキラ光る絵—

2026年最初の Happy Art Day です♪

今年年長さんは光にかざすと魔法のようにキラキラ光る絵を制作しました。

今回はマッキーペンが大活躍です。

一人一人が自分の好きなテーマで描き出しました。今回は白い紙ではなく、透明なシートに描いていきます。

いつもと違う素材に描くのはドキドキワクワクしますね！

線を描き終わったら透明なシートをひっくり返し、裏側から色を塗っていきます。

黒い線からはみ出さないようにじっくり色を塗っていきます。

塗り残しがないように塗るのは大変だったけど、諦めずにいっぱい塗ってくれました！

アルミホイルの上にとせるとキラキラと輝いて見える絵に子どもたちも目をキラキラと輝かせて喜んでいました♪

身近な素材でも魔法がかかったように素敵な作品ができる発見もありました。

素晴らしい作品が出来ましたね♪



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day ー粘土で雪だるまー

新年最初の Happy Art Day です♪

今回は粘土を使った雪だるまの制作です。

なが〜く伸ばしたり、揉んで粘土の柔らかさ楽しめます。

柔らかい食感に子どもたちは驚きと発見をしながら楽しんで粘土で遊びました。



いっぱい粘土で遊んだら手でころころ転がして2つのお団子にします。

お団子の1つには人差し指で大きくお口を開けておきます。

赤、青、黄色の3色の中から好きな色を1色選び、お団子のお口の中にパクッと入れます。伸ばしてべったん、伸ばしてべったん、掛け声と一緒に粘土と絵の具がどんどん混ざっていく様子を観察しながらカラー粘土を作ります。



色が少しずつ変わっていく様子は子どもたちにとって不思議な発見になりました。

色のついたお団子と白のお団子の二つを両手でべったんと潰して板の上にポンドで貼ります。雪だるまの形ができたなら目と口、手をつけて雪だるまの完成です！



仕上げに雪だるまや周りをキラキラ装飾していきます。

初めてみる素材もあり、子どもたちはワクワクしながら飾り付けをしていきました♪

触覚をいっぱい使った楽しい粘土の制作になりました！

素敵な雪だるまができましたね！



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day —キラキラ光る絵—

2026年最初の Happy Art Day です♪

今年年長さんは光にかざすと魔法のようにキラキラ光る絵を制作しました。

今回はマッキーペンが大活躍です。

一人一人が自分の好きなテーマで描き出しました。今回は白い紙ではなく、透明なシートに描いていきます。

いつもと違う素材に描くのはドキドキワクワクしますね！

線を描き終わったら透明なシートをひっくり返し、裏側から色を塗っていきます。

黒い線からはみ出さないようにじっくり色を塗っていきます。

塗り残しがないように塗るのは大変だったけど、諦めずにいっぱい塗ってくれました！

アルミホイルの上にとせるとキラキラと輝いて見える絵に子どもたちも目をキラキラと輝かせて喜んでいました♪

身近な素材でも魔法がかかったように素敵な作品ができる発見もありました。

素晴らしい作品が出来ましたね♪



子ども芸術ネットワーク所属
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

Happy Art Day ー粘土ひもアートー

第 11 回 Happy Art Day です！

今回年中さんは粘土ひもアートに挑戦しました！

手のひらで粘土をはさみ、粘土を長〜いへびさんになるように伸ばします。

伸ばしたへびさんにポンドをつけて段ボール板に貼っていきます。

木の枝のように伸びていったり、うねうねと曲がるような線ができて個性が出ますね！

へびさんが段ボール板の中にたくさんのお部屋を作ってくれました！お部屋が出来上がったら赤、青、黄色、白の絵の具で塗り分けていきます。

絵の具の使い方もここまで Happy Art をやってきた年中さんはバッチリです！



ダンボールの白いところや粘土の隙間の細かいところまで筆を使って塗り分けていきました。

全部の色を混ぜるとどうなるかな？

赤と青はどうか？



色混ぜもすることによって、子どもたちの色への興味を引き出しながらお部屋の中をいろんな色で塗ることができました！



素敵な作品がたくさんできましたね♪



子ども芸術ネットワーク
かしの木アートクラブ講師
曾根 叶子

③ 環境を使った探究活動
— 特別プログラム
(インスタレーション) —

かしの木の下で、思いは空間になる

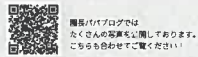
— インスタレーション活動が教えてくれたこと



子ども達は、本来素晴らしい創造力をもっています。それは、大人が枠を決めたときよりも、自由に想像を超えて、驚くほどの広がりを見せます。今年の「かしの木展」は、その「生まれる瞬間」をご家族にも感じていただく場になりたいと考えています。どうぞお楽しみにしてください。 園長 土方崇

と皆様にお伝えしましたが、いかがでしたでしょうか。きっと素敵な出会いがあった事と拝察します。ありがとうございました。園庭の中央に立つ、かしの木。季節が巡るたびに葉を茂らせ、実を落とし、子どもたちの遊びを静かに見守ってきました。かしの木幼稚園の保育は、いつもの木の下の下から始まっています。急がず、教え込まず、子どもたちが自分の足で立ち、考え、広げていく姿を信じて。今回のインスタレーション活動は、そんな本園の保育の姿が、空間として立ち上がった時間でした。インスタレーションは、何かを上手につくる活動ではありません。素材や空間と出会い、感じたことを、自分なりの方法で表していく表現です。廃材などの素材、日常の中にある物。それらは、かしの木の下で日々触れてきた、子どもたちにとって馴染み深い存在です。いつもの遊びの延長に、少しか「立ち止まって考える時間」が加わったような、そんな活動でした。子どもたちは、「何を作るのか」とすぐには決めません。素材を手に取り、置いてみて、離れて眺め、また動かす。その繰り返しの中、「なんだかいい」「ここはちがう」という感覚を頼りに、少しずつ形を見つけていきます。教師は答え

を示しません。ただ環境を整え、そっと見守ります。かしの木が、黙って子どもたちの背中を支えているように。そこには、上手・下手も、正解・不正解もありません。あるのは、「その子が、今、何を感じているか」ということだけです。言葉にならない思いは、素材の重なりや、空間の余白となって表れます。完成よりも、迷いながら考え続ける時間こそが、子どもたちの表現を豊かにしていました。同じ空間には、友だちの表現もあります。「それ、きれいだね」「ここに置いたらどう？」そんな小さな言葉が行き交いながら、互いの存在が刺激となり、表現は静かに広がっていきまします。無理に考えなくても、同じ場所にいられる。かしの木の下で育ってきた安心感が、こうした関係性を支えているように感じます。素材に触れ、空間を行き来する中で、子どもたちは重さや形、光や影に気づいていきます。そして活動のあと、「どうしてこうしたのか」を語ろうとする姿がありました。体験が、少しずつ言葉になっていく瞬間です。こうした一つ一つの姿は、幼稚園教育要領が大切にしている、環境を通して育つ学びそのものです。今回のかしの木展は、作品を見せる場であると同時に、かしの木幼稚園が大切にしてきた保育の時間を、保護者の皆様と分かち合う場でもありました。目に見える形の奥には、考える力、感じる心、友だちと共に過ごす力といった、目には見えない育ちがあります。これからも、かしの木の下で、子どもたちは迷い、試し、広げていくでしょう。その一歩一歩を信じて見守ること。それが、私たちの保育なのだ、改めて感じたインスタレーションの時間でした。



撮影ブログでは、たくさんの方の感想も聞かせてあります。こちらもぜひ読んでください！



インスタレーションとは？

インスタレーションは、空間そのものを使って表現する活動です。あらかじめ完成形を目指すのではなく、その場で出会う素材や人と関わりの中で、時間とともに姿を変えていきます。

一人ひとりが、素材や場と出会いながら、自分なりの関わり方で過ごしていきます。触れてみる、並べてみる、揺らしてみ、じっと眺めてみる。ひもや毛糸、写真などの身近な素材は、「何かをつくるため」の道具ではなく、感じたことを試してみるためのきっかけとして用いられます。また、子ども同士の偶然的な関わりや、場に生まれる空気の変化も、この活動の大切な要素です。その場で起きてくる出来事や関わりそのものが、作品であり、表現となります。完成した形だけでなく、そこに至るまでの過程や、子どもたちが感じた時間そのものを大切にしています。

今回の取り組みについて

かしの木園に向けて、ホール全体を使ったインスタレーション表現に取り組みました。活動は一日で完結するものではなく、日々の保育の流れの中で継続して行われ、子どもたちの関わりに応じて空間が少しずつ変化していきます。この空間は、子どもたちが実際に過ごし、関わってきた時間の積み重ねりそのものです。

- ねらい
- 自分で選び、考え、関わる経験を重ねる
 - 友だちや空間との関係の中で、表現を広げていく
 - 結果ではなく、過程や内面の動きに目を向ける
- インスタレーションを通して、子どもたち一人ひとりの「今」の姿と、その奥にある育ちを受けとめていきたいと考えています。



展示方法の主な内容

- ① インスタレーション空間の展示
ホール全体を使ったインスタレーション表現は、子どもたちが実際に関わってきた空間そのものを展示しています。結び目や配置、重なりは、活動の過程としてそのまま残しています。
- ② 活動の様子が見える記録展示
活動中の写真や、子どもたちのつぶやき、職員が見取ったエピソードを掲示し、空間の中で何が起きていたのかが伝わるようにしています。
- ③ 活動で生まれた作品の展示
周辺スペースには、遊びの中で生まれた個人の作品を展示しています。インスタレーションとあわせてご覧いただくことで、普段の子どもたちの姿を感じていただけます。

Check!



インスタレーション制作風景の動画はこちらから



インスタレーションの制作風景の動画はこちらから

インスタレーションの軌跡

The path of the installation



Day1 1/13
インスタレーションのスタートの始まりです

Day1 1/13 ②
各クラス1時間ずつ行った後の様子です

Day 4 1/16
初日に比べ、線の表現が増えていきます

Day8 1/20
子どもたちの表現は止まることなく続いています

Day11 1/23
空間の密度が増してきました

Day19 1/31 かしの木展当日
ホールを埋め尽くす表現が誕生しました

片付けながら
どんどん新しく作品が生まれました！

④ 探究の可視化と共有
— カシノキジャーナル —

ジャーナル (月1回発行)



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【日常的なコーナー保育を通して】

① 自然の中では、子どもは自ら問いを持ち始める

園庭での泥んこ、どんぐり、焚き火、落ち葉、イチョウの葉との出会いの中で、子どもたちは「みて！見つけたよ！」「いっぱいだあ！」と発見を共有していた。

また、コーナー保育の中では、園庭で拾った木の実や葉、見つけた虫などをデジタル顕微鏡で観察し、「これ、もようがある」「足がいっぱいあるね」など、見えたことを子どもたち同士で言葉にし合う姿も見られた。

保育者が課題を与えなくても、自然環境や身近な素材そのものが問いを生み出していることに気づいた。

自然は“教材”ではなく、子どもの探究を引き出す環境そのものである。

② 繰り返しが、集中と自信を育てる

紐通しや制作活動では、集中して何度も試す姿や、「難しい方もやる！」と挑戦する姿が見られた。

泥だんごや積み木、水路づくりなども、一度で完成するのではなく、崩れ、やり直し、また作るという過程を繰り返している。

うまくいかない経験こそが、粘り強さや調整力につながっていることを実感した。

③ 子ども同士の関わりが探究を深める

制作を覚えた子が友だちに教える姿や、分からない子が友だちに聞く姿が自然に生まれていた。

大きな作品づくりの中では、意見を交わし、協力し合いながら形にしていく様子が見られた。

保育者が中心にならなくても、子ども同士の関係性が探究を推進する力になることを改めて感じた。

④ 日常の何気ない姿こそが“表現”である

泥んこの足あと、ふとこぼれる言葉、集中した横顔。

園庭で見つけたものを顕微鏡でのぞき込み、「なんでこうなってるんだろう」と語り合う姿もまた、子どもたちなりの表現であり、探究の姿である。

それらは特別な制作活動でなくとも、その子だけの「今」を映している。

「日常そのものがアート」という視点は、特別な行事ではなく、日々のあそびの中にすでに存在していることを再確認した。

⑤ 保育者の役割は“共に試行錯誤する伴走者”である

保育者がそばで共に試行錯誤し支える姿勢が大切。

自然の中でも制作の場面でも、教えるのではなく、

- ・見守る
- ・問い返す
- ・環境を整える

という関わりが、子どもの主体性を支えていることを実感した。

<総括>

かしの木幼稚園の日常は、泥んこも、焚き火も、廃材も、積み木も、すべてが探究の素材である。

さらに、園庭で拾ったものや虫をコーナー保育の中でデジタル顕微鏡で観察し、見えたものを子どもたち同士で語り合う姿からも、日常の発見が自然に探究へとつながっていることが見えてきた。

振り返りを通して見えてきたのは、子どもはすでに探究者であり、保育者はその探究を邪魔せず、環境を整え、関係をつなぐ存在であるということ。

自然と共にある日常の中で、子どもたちは今日も、自分だけの問いを見つけ続けている。

【Happyart の振り返り】

（位置づけ：日常がアートという根本活動を補助する役割）

Happyart は、当園における「日常がアート」という探究の根幹を支える補助的な活動として実施している。中心はあくまで日常のコーナー保育や自然遊びにあるが、Happyart はその探究を広げ、深めるための“実験的な場”として機能している。振り返りを通して見えてきたことは以下の通りである。

① 偶然を楽しむ感性が育っている

子どもたちは、自分の意図を超えて起こる変化や現象に驚き、面白がる姿を見せていた。

結果をコントロールすることよりも、「どうなるだろう」という期待や観察を楽しむ姿勢が育っている。

これは、自然遊びの中で起こる予測不能な変化を楽しむ姿と共通している。

② 優劣のない構造が自己肯定感を支えている

活動設計上、作品に優劣が生まれにくい構造を意識してきたことで、

「自分にもできた」という実感を多くの子どもが得ていた。

この成功体験は、日常の探究活動において挑戦を継続する土台となっている。

③ 素材や表現への視野が広がっている

素材の見方や使い方を広げるきっかけになっている。

日常の遊びの中で、子どもたちが素材を再解釈し、新しい意味づけをする姿が見られるようになった。

これは、インスタレーションや廃材遊びにも還流している。

④ 技法の経験が日常活動を支えている

折る・混ぜる・貼る・重ねるなどの基礎的な経験が、

日常のコーナー保育において「やってみたい」を形にする手段として活用されている。

技術習得の場ではなく、“試せる引き出し”を増やす場として意味を持っている。

⑤ 「特別な日」が日常を強くする

日常の探究を補強する位置づけで継続してきた。

振り返ると、Happyart で得た感覚や経験が、コーナー保育や自然遊びの中で再び使われていることが確認できた。

<総括>

Happyart は、日常の中心に立つ活動ではない。

しかし、日常をより豊かにするための補助線として重要な役割を担っている。

子どもたちの

- ・偶然を楽しむ力
- ・自信を持つ力
- ・素材を再解釈する力
- ・試行錯誤を続ける力

を静かに支える存在であり、「日常がアート」という園の理念を、外側から補強する活動である。

【特別プログラム~インスタレーション~の振り返り】

(かしの木展)

1. 位置づけ

本活動は、日常のコーナー保育で生まれている子どもの探究や表現を、空間全体へと拡張する取り組みとして実施した。

作品を完成させることを目的とするのではなく、子どもが素材や空間と関わりながら試行錯誤するプロセスそのものを大切にする場として位置づけている。

日常で育まれてきた「選ぶ」「試す」「続ける」という姿勢が、より大きな環境の中でどのように広がるのかを確かめる機会でもあった。

2. 活動を通して見えたこと

① 環境が子どもの思考を動かす

空間全体を素材として扱うことで、子どもたちはこれまでとは異なる視点で環境と向き合っていた。

素材の置き方や広がり、光や動線の変化によって、

子どもの動きや対話が自然に生まれていく様子が見られた。

保育者の指示よりも、環境そのものが問いを生み出していることを改めて実感した。

② 個の表現が関係の中で広がる

一人の発想やつぶやきが、周囲の子どもに影響を与え、

空間全体の表現へと広がっていく場面が見られた。

インスタレーションは個人制作ではなく、

関係性の中で変化し続ける活動であることが明確になった。

協働の中で、意見を伝え合い、折り合いをつけ、再構成していく姿が育っている。

③ 過程を共有することの意味

展示の場は成果を見せるだけでなく、

「どのように考え、どのように試してきたか」を共有する機会となった。

保護者や他クラスの子どもたちが空間を体験することで、

子ども自身が自分の試行錯誤を振り返る時間にもなっていた。

表現は完成した瞬間よりも、そこに至るまでのプロセスに価値があるという視点を、園全体で再確認した。

④ 日常との連続性

インスタレーションでの経験は、その場で完結するものではなく、その後のコーナー保育や自然遊びへとつながっている。

素材の扱い方、空間の見立て、友だちとの関わり方などが、日常の中でより豊かに表れている。

本活動は、日常の探究を一時的に拡大し、再び日常へと還流させる循環の一部である。

3. 総括

インスタレーションは、特別な展示活動ではなく、

日常の探究を空間規模で可視化する取り組みである。

- ・環境が問いを生むこと
- ・関係の中で表現が変化すること
- ・過程を共有することで学びが深まること

これらを改めて確認する機会となった。

子どもたちが空間の中で試行錯誤した時間は、

自ら考え、仲間とつくり続ける力を確実に育てている。

【カシノキジャーナルの内容・位置づけ・振り返り】

1. 内容

カシノキジャーナルは、園の日常的な探究活動のプロセスを可視化し、家庭および地域へ共有するために発行している記録媒体である。

活動の成果物を紹介するのではなく、

- ・子どもの言葉
- ・活動中の試行錯誤
- ・友だちとの関わり
- ・環境との出会い

といった「過程」に焦点を当てて編集している。

写真や文章を通して、日常の中で生まれている問いや発見を丁寧にすくい上げることが目的としている。

2. 位置づけ

カシノキジャーナルは、単なる広報物ではない。

本園のテーマである「日常がアート」という実践を支える、**探究の循環装置**として位置づけている。

園内では、

記録 → 共有 → 対話 → 環境調整 → 再実践
という循環を生み出す役割を担っている。

また、家庭にとっては、

- ・子どもの姿を深く理解する手がかり
- ・園の保育観を知る窓
- ・家庭での会話のきっかけ

となる媒体である。

ジャーナルは、園と家庭をつなぐ「信頼の窓」として機能している。

3. 振り返り

① 記録することで保育の質が可視化された

日々の何気ない場面を言語化する過程で、

保育者自身が子どもの姿を再発見する機会となった。

記録は報告のためではなく、

保育を再設計するための材料であるという認識が強まった。

② 過程共有の重要性が明確になった

成果物ではなくプロセスを共有することで、
保護者の視点が「できた・できない」から
「どう考え、どう試したか」へと広がっていった。
これは、本園の探究型保育の理解促進につながっている。

③ 子どもの言葉が中心にある文化が定着してきた

ジャーナルを通して、子どもの言葉やつぶやきを記録する文化が園内で強まった。
子どもの発言を保育の中心に置く姿勢が、
より意識的なものへと変化している。

④ 日常の価値を再確認する機会となった

特別な行事だけでなく、
日々のコーナー保育や自然遊びの中にこそ豊かな探究があることを、
改めて整理することができた。
ジャーナルは、
日常の価値を言語化し、園全体で共有する媒体として機能している。

4. 総括

カシノキジャーナルは、

- ・記録する
- ・共有する
- ・振り返る
- ・再設計する

という探究の循環を支える基盤である。
活動そのものではなく、
活動を“次につなげる仕組み”として重要な役割を担っている。
子どもの言葉とプロセスを丁寧にすくい上げ続けることが、
本園の「日常がアート」という実践を支えている。

【令和7年度 すくわくプログラム 振り返り】

1. 全体総括

2025年度のすくわくプログラムは、「日常がアート」というテーマのもと、特別な活動を増やすのではなく、日常の探究を中心に据えた実践として展開した。

コーナー保育を基盤とし、Happyart、インスタレーション、森や焚き火の特別プログラム、そしてカシノキジャーナルによる記録・共有を組み合わせることで、探究の循環構造を意識的に構築してきた。

振り返りを通して見えてきたのは、活動の量ではなく、**探究の質が確実に深まっている**という点である。

2. 子どもの変化

① 問いを持ち続ける姿勢

子どもたちは、環境や素材との出会いの中で「なんで?」「どうなるの?」と問いを発生し、自ら試す姿が増えている。

特別な場面だけでなく、日常の遊びの中で自然に探究が始まる姿が定着してきた。

② 試行錯誤を楽しむ力

偶然の変化や予測不能な出来事を面白がる姿勢が育っている。

失敗を避けるのではなく、やり直すことや続けることを選ぶ子どもが増えている。

③ 協働的な探究

インスタレーションや自然体験を通して、他者の発想に影響を受けながら再構成する姿が見られた。

個人の表現が関係の中で広がる経験は、集団

3. 保育者の変化

① 環境を見る視点の深化

環境が子どもの思考を動かすことを再認識し、保育者主導ではなく、環境設計を重視する視点が強まった。

② 記録文化の定着

カシノキジャーナルを中心に、日常の姿を言語化する文化が強まった。
記録が単なる報告ではなく、保育を再設計するための材料として機能している。

③ 日常の価値の再確認

特別な成果を求めるのではなく、日々の試行錯誤こそが子どもの学びの本質であるという認識が職員間で共有された。

4. 家庭との関係

月 1 回のジャーナル配信と紙媒体共有により、日常の探究過程を家庭と共有することができた。

特別プログラムでは親子で体験を共有する時間が生まれ、園と家庭が同じ視点で子どもを見る関係性が深まった。

保育の「意図」が見えることで、信頼関係が強化されている。

5. 循環構造の確立

2025年度の最大の成果は、活動単体の成功ではなく、

日常探究

↓

特別プログラムによる拡張

↓

記録・共有

↓

振り返り

↓

環境再設計

という循環が実際に機能し始めたことである。

探究がその場限りで終わらず、次の実践へとつながる構造が確立しつつある。

6. 今後に向けて

今後の課題は、

- ・さらに子どもの言葉を中心に据えること
- ・記録をより対話へとつなげること
- ・環境設計の質を高め続けること

である。

すくわくプログラムは、特別な取り組みではなく、園文化そのものへと根づき始めている。

2025年度は、その基盤が明確になった一年であった。